H16.12.24(金) AM9:30～PM3:10
下呂庁舎３Ｆ会議室

第５回行政改革推進委員会（会議メモ）

■出席者

【委　員】
・熊﨑　徹三（下呂）　・今井　實郎（萩原）　・松山　則樹（萩原）　・野口　博二（萩原）
・田口　洋子（下呂）　・中島　洋三（下呂）　・石原　郁夫（小坂）　・松嶋千恵美（下呂）
・千田　文重（金山）
欠席者　・大前　保彦（馬瀬）　・早子　雅司（小坂）　・河尻　和憲（金山）

【執行部】
・市長　山田良司
【事務局】
・総務部長　細江和彦
・行政改革推進室長：池戸昇　・行政改革推進室課長補佐：今井藤夫

■会議メモ

１、開会あいさつ（会長）
◇年末で多忙な時期の開催となったことのお詫びとお礼
◇各委員の積極的な発言を望む。
◇今後、具体的な事項については、各部課長に説明をお願いすることも検討。
２、市長あいさつ
◇年末で多忙な時期の開催及び熱心な議論に対するお礼。
◇就任以来、行政とはいかに複雑な内容であるか痛感している。
◇行革とは「入るを図りて、出ずるを制する」ことにつきると考えている。

３、協議事項
（１）総合計画の策定の方法と方針について
◇総合政策課：田谷主査から、総合計画策定の基本的な考え方を説明。
・目的、政策、施策、単位施策、事務・事業と４階層の体系図を作成し、担当している業務の拾い出しを行い整理した。縦割りと言われる弊害を業務を目的別に整理したことにより、こうした点を改められていくことが考えられる。
・単位施策、施策の単位で「有効性」の観点で成果指標を設けることとした。経済性、効率性については、次回の計画から盛り込んでいく予定である。また、部長、課長等の責任の所在が明確になっていくと考えられる。
○旧町村でもこうした成果指標をもって行っていたのか。
→各町村とも行っていなかった。初の試みであり、職員も戸惑いも大きい。
○新しい試みであり、充分評価できるし、期待できる内容と思う。また、従来責任の所在が明確でなかったが、責任の所在が明確になることは評価できる。
○市民の満足度を上げることは、コストを上げることにならないか。
→予算と人事のバランスを図り、内部理解を高めていく。
○数字に表すことのできない指標を明確に評価していけるか。
→今回は有効性のみの評価とする。経済性、効率性は次回までの課題としたい。一足飛びにその段階まで上げていくことは困難。指標についてはより現実的な指標を検討中。
○現状認識・現状の測定が、不明確・不十分なのではないか。
→業務の拾い出しをした段階で個別になされたものと理解している。
○計画期間中の人事異動はどのように反映されるのか。（管理者の責任との関係）
→毎年指標を設けていくので、人事異動は反映される。
○市民基本の姿勢は評価できるが、コストへの跳ね返りの不安がある。
→毎年、財政計画の見直しを行い、事務・事業のローリングを実施するので、財政状況が必ず反映

されるシステムである。
○アンケートはどのように行うのか。
→現状についてアンケート調査を実施し、以後、モニター形式で毎年実施していく予定。
○ＩＳＯと同様のものと理解できる。コンサルタントには業務委託しているのか。
→意見のとおり。コンサルタントにも業務の一部を委託している。
○他の自治体等先進地の事例はどうか。
→成果指標の策定等、行政改革の一環としてとらえることができる。手法や具体的なシステムは異なるが、方向性は概ね同様である。
○市の施策と市民の望む方向のアンバランスの解消。有効性の判定は誰がするのか。
→個々の事業でなく、施策・単位施策段階で評価することが重要。
評価は、担当者、課長、部長レベルで評価し、順次上へあげていく。当然に実施の前後には議会もあり、予算・決算等の審議が行われる。また、結果を公表していくことで、市民の評価を得ることになる。
○目的とは異なる方面で発生する付加価値の評価はどうするのか。
→あくまでも初期の目的を達成することを第一義にすることで、目的に対して言い訳を許さない姿勢が大切。付加価値とは主従の関係でありプラスαであると評価する。
○既に事業が始まっているものもあり止められない現状。
→今年度の予算の特殊性（旧町村単位で編成した予算の持ち寄り予算的色合いが強い）もある。今後、目的を明確にすることで事業の選択も必然的に発生してくると考えられる。
数値目標を持つことで、職員の意識改革も行われる。それがサービスへの向上へと進む。
○先の委員会で議論した数値目標の設定等、概ねの内容は理解したし、方向性も評価できる。個々の課題については、総合計画策定の委員会で議論されると思う。
早い段階で経済性、効率性の観点も設定できるよう期待する。

（２）行政改革推進本部の取組み状況について
◇行革推進室：池戸室長から説明
・１４の分科会が活動を開始し、各分科会とも年内２回は会議を開催し、課題の発掘やそれに伴う資料の収集等を行い、議論を開始した。
・組織については、年内５回の分科会を開催し、来年４月の組織改革・人事に向けて、執行部と調整を行っている。
ベストではないかもしれないが、よりベターな組織としていくことを考えている。
・分科会長との意見交歓会、報告会等を２月ぐらいに計画したいと考えている。
・１月２７日（木）昼の部と夜の部と分けて職員研修目的の講演会を開催する。
○先の新聞報道「合併による振興事務所（旧役場）の職員減により、周辺の飲食店が打撃を受けている」との記事で、行政改革の難しさを実感した。

（３）行政改革に関する委員からの提言に対する協議
◇別紙「下呂市行政改革に関する３０の提言」について協議
○あくまでも委員会の総意ではなく、ここまでの議論の過程をまとめたものである。今後、これが表に出ることで、委員に対して市民から意見が寄せられることも予想される。
○方向性を示しただけで、具体性がないがこれでいいのか。
○現段階での委員の思いを伝えるという考え方でいいのではないか。今までの経過を「提言」として提出するもの。
○一定の方向性を示し、これを参考にしながら具体的な内容を検討することは行政内部の業務であり、委員会として具体的な手法を考えることはできない。
○委員会と職員が対立するのでなく、一丸となって進んでいくことが大切。この提言を真摯に受け止め、職員側からも評価できる具体策が示されるものと確信している。
○合併が駆け込んでしまった感がある。今後、重要な事項については充分市民の合意を得て進めることが重要。
○高地トレーニングセンターについて説明を聞きたい。
→国・県の助成を受けた事業で、高根村、朝日村との関係もある。市政懇談会でも地元の理解は得られていると理解している。

有名アスリートが海外に練習会場を求める中で、国内唯一の高地トレーニング施設として、御岳山、濁河温泉の有効活用と情報発信を行っていければと考えている。国内最高地のトレーニング施設、温泉地としてオンリー・ワンの施設としての設置意義は大きいと思う。
具体的な内容（施設の内容、維持管理の方法等）については現在検討の途中である。
○説明を受けた前後では、認識が異なってくる。こうした説明が充分市民に伝わっていない。
○市民に対する広報活動と完成後に向けた誘客活動も、早々に行っていく必要がある。
→こうした面も含め組織についても、現在検討中である。
○コンベンション・アリーナの計画について説明を聞きたい。
→下呂温泉病院の改築のために取得した県有地との関係がある。下呂温泉病院の計画との整合性を図る必要がある。
下呂市街地の一体整備に向けた国の補助を受けた事業である。５千人規模収容の施設建設との話しも聞くが、物理的に無理である。適正な規模等も含め今後検討していく。
○退職職員の中で、関係団体への再就職者の状況について、次回会議までに調査いただきたい。
○職員の総数は他市と比較して多いと考えられる。嘱託職員を雇用するのではなく職員で行うことはできないのか。
→職員数については一概に比較はできない。また、臨時・嘱託については合併時に大きく整理している。
○公用車のあり方などは、早急に結論を出すことができると思うが。
○花火のとき客が一番集まるのは露天商。地元商店に反映させられないか。また、水曜日休業の飲食店が多く、観光客も不便を与えているとも聞いた。
観光・商工の連携についても重要なことと考える。
○情報公開にあたっては、伝達の方法を充分に検討して進められたい。せっかくのホームページも活用している人は少ない。
○職員は市民との良好な関係を築き、市民に信頼される職員であってほしい。

次回：１月２７日（木）職員研修に併せた日に開催。